



2023年8月期 通期

決算説明資料

株式会社トリプルアイズ
(証券コード5026)

CONTENTS

2024年8月期業績予想

成長市場におけるM&Aと成長戦略

2023年8月期通期業績

当社グループの強み

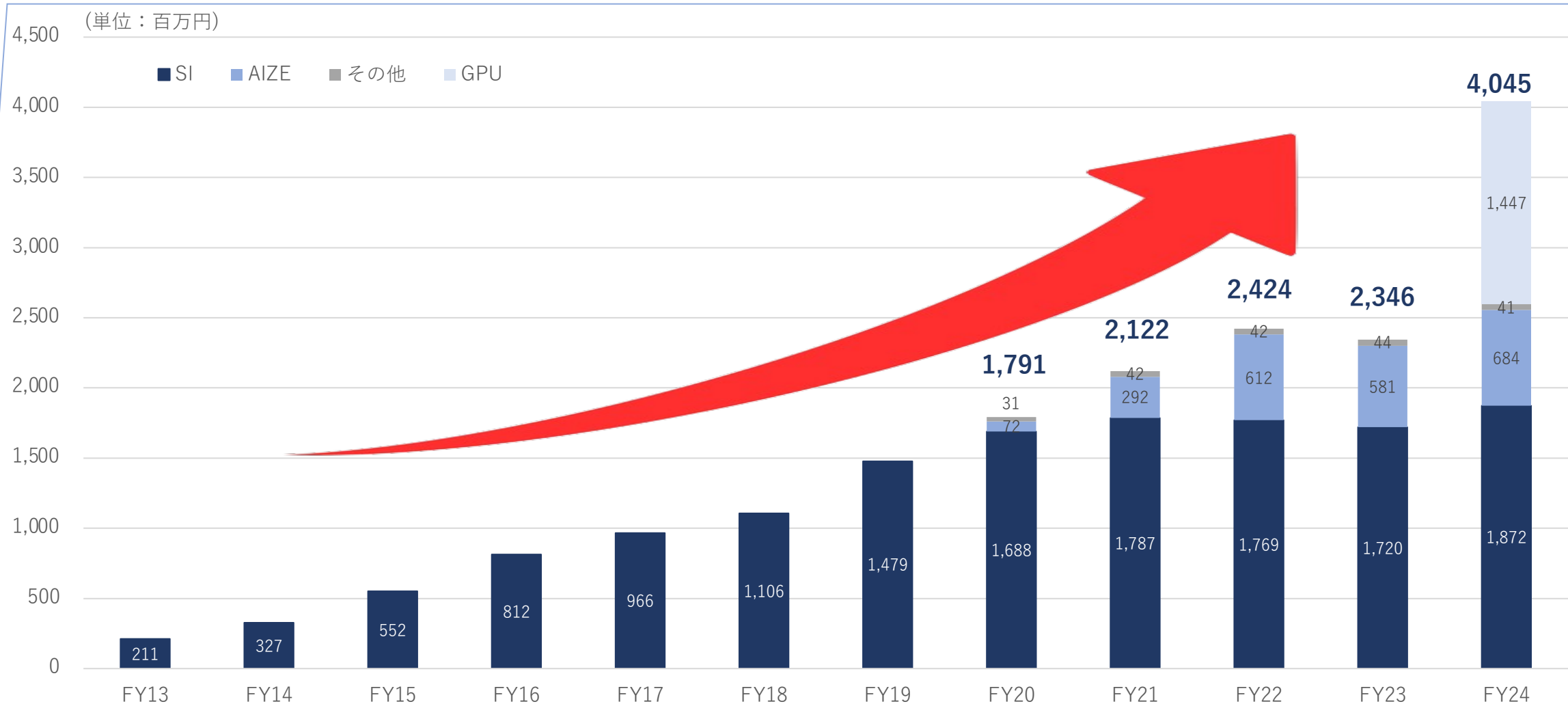
Appendix:業績、会社概要、事業関連

売上高は40億円で1.7倍、売上総利益は12.5億円で2倍超を見込んでいます。EBITDAは48百万円で2.9億円の改善、営業利益は96百万円の赤字で1.7億円の改善となっています。

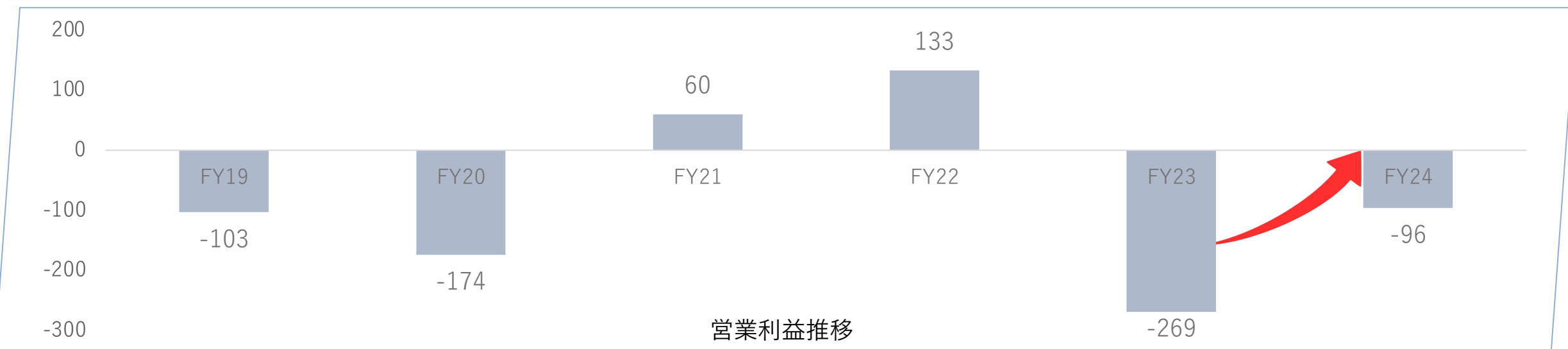
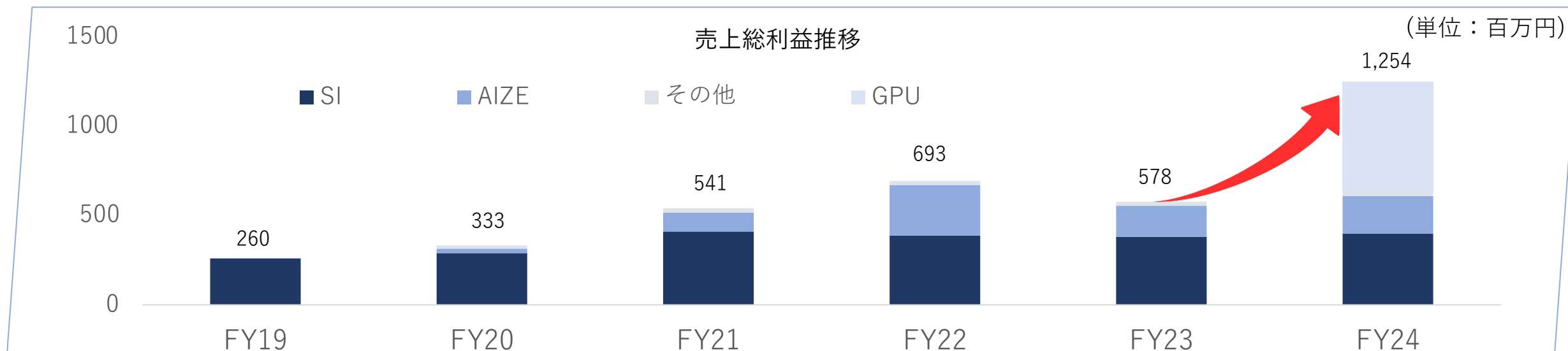
(単位：百万円)	2022年8月期 通期 実績	2023年8月期 通期 実績 (A)	2024年8月期 通期 業績予想 (B)	増減額 (B-A)	前年比 (B/A)
売上高	2,424	2,346	4,045	+1,698	172.4%
売上総利益	693	578	1,254	+675	216.9%
EBITDA	166	△249	48	+298	—
営業利益・損失(△)	133	△269	△96	+173	—
経常利益・損失(△)	115	△290	△86	+203	—
親会社株主に帰属する 当期純利益・純損失(△)	112	△825	△87	+737	—

※EBITDA = 営業利益 + 償却費

FY13からFY21にかけてSI事業を主として10倍の成長をしてきました。FY22にかけては、AIZE事業の拡大によりAIという成長性の高い分野での売上規模割合が増加しました。FY23は検温機器ハードのスポット売上の反動減により前期比減収となっております。FY24において株式会社ゼロフィールドを連結に取り込むことで成長領域の売上を積み上げ、成長し続ける会社としてさらに前進していきます。

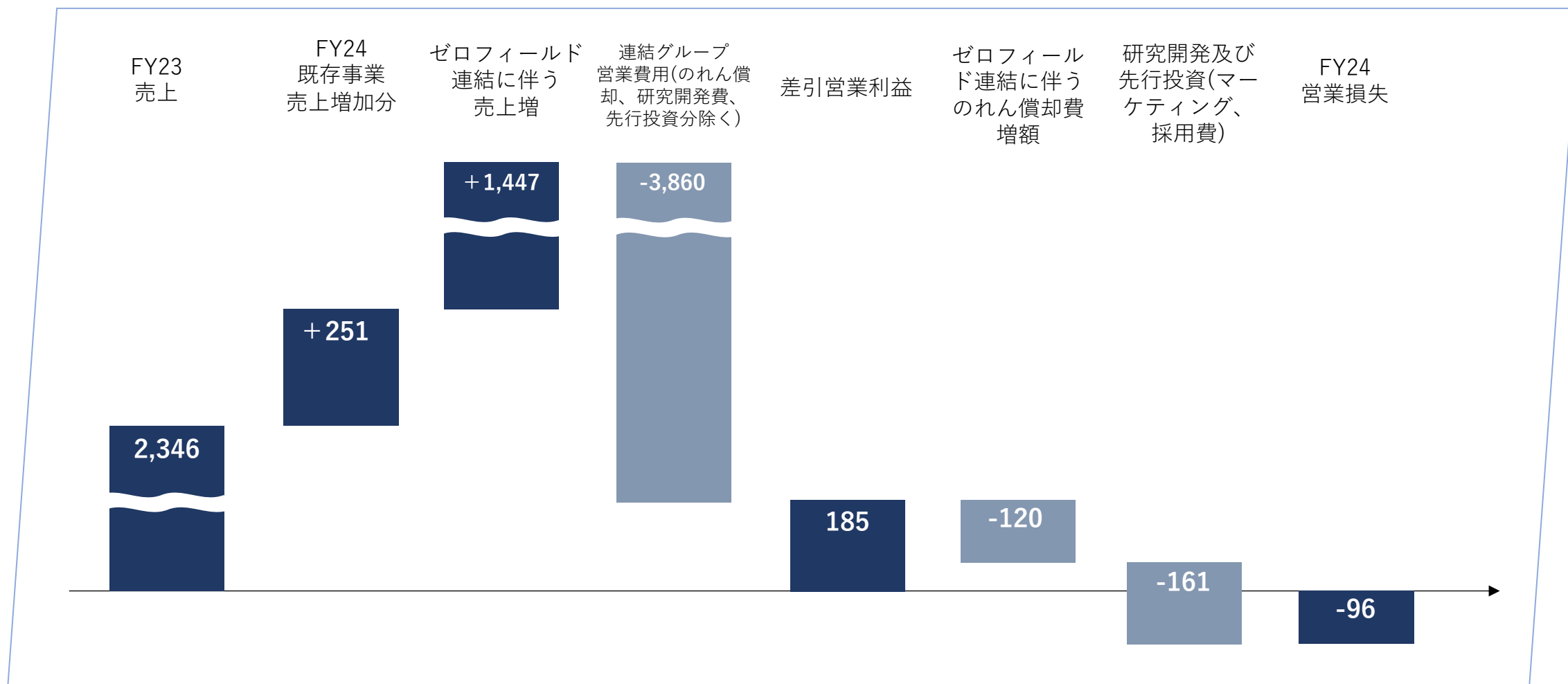


売上総利益及び営業利益は、同様の傾向であり、FY24 (2024年8月期)において、既存事業についても前期比で増加（改善）する計画であり、さらに株式会社ゼロフィールドがグループインしたことにより増加しております。



(単位：百万円)	(業績予想)					
	2019年8月期	2020年8月期	2021年8月期	2022年8月期	2023年8月期	2024年8月期
売上高	1,479	1,791	2,122	2,424	2,346	4,045
SI	1,479	1,688	1,787	1,769	1,720	1,872
AIZE	—	72	292	612	581	684
その他	—	31	42	42	44	41
GPU	—	—	—	—	—	1,447
売上総利益	260	333	541	693	578	1,254
SI	260	289	410	388	380	399
AIZE	—	27	105	281	173	211
その他	—	17	24	22	24	22
GPU	—	—	—	—	—	620

24/8通期業績予想売上4,045百万円のうち、251百万円は既存事業の売上増加分であり、1,447百万円はゼロフィールドの連結子会社化に伴うものであります。24/8通期業績予想営業損失は96百万円ですが、研究開発費、先行投資、ゼロフィールド連結子会社化に伴うのれん償却費増額を除いた差引営業利益は185百万円であります。



※M&Aのれん償却増額は未監査であり、確定前の当社算出の概算値となります。

CONTENTS

2024年8月期業績予想

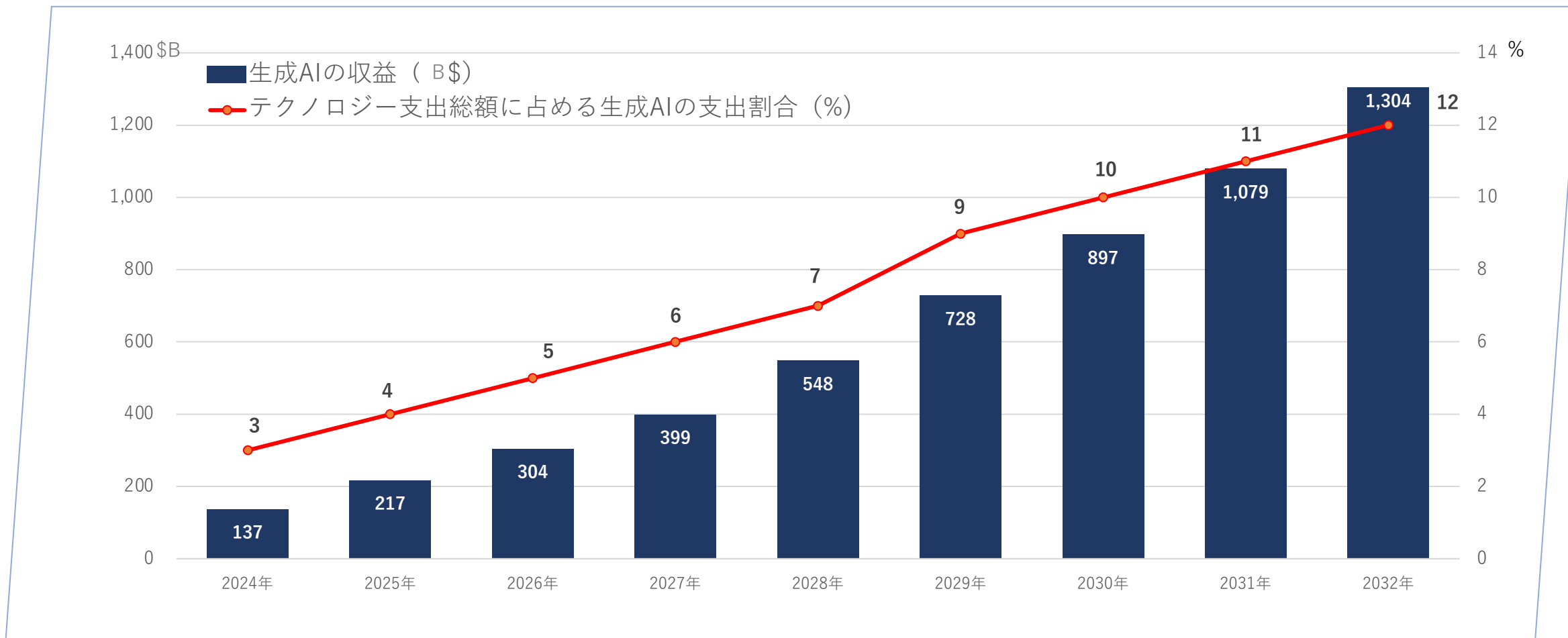
成長市場におけるM&Aと成長戦略

2023年8月期通期業績

当社グループの強み

Appendix:業績、会社概要、事業関連

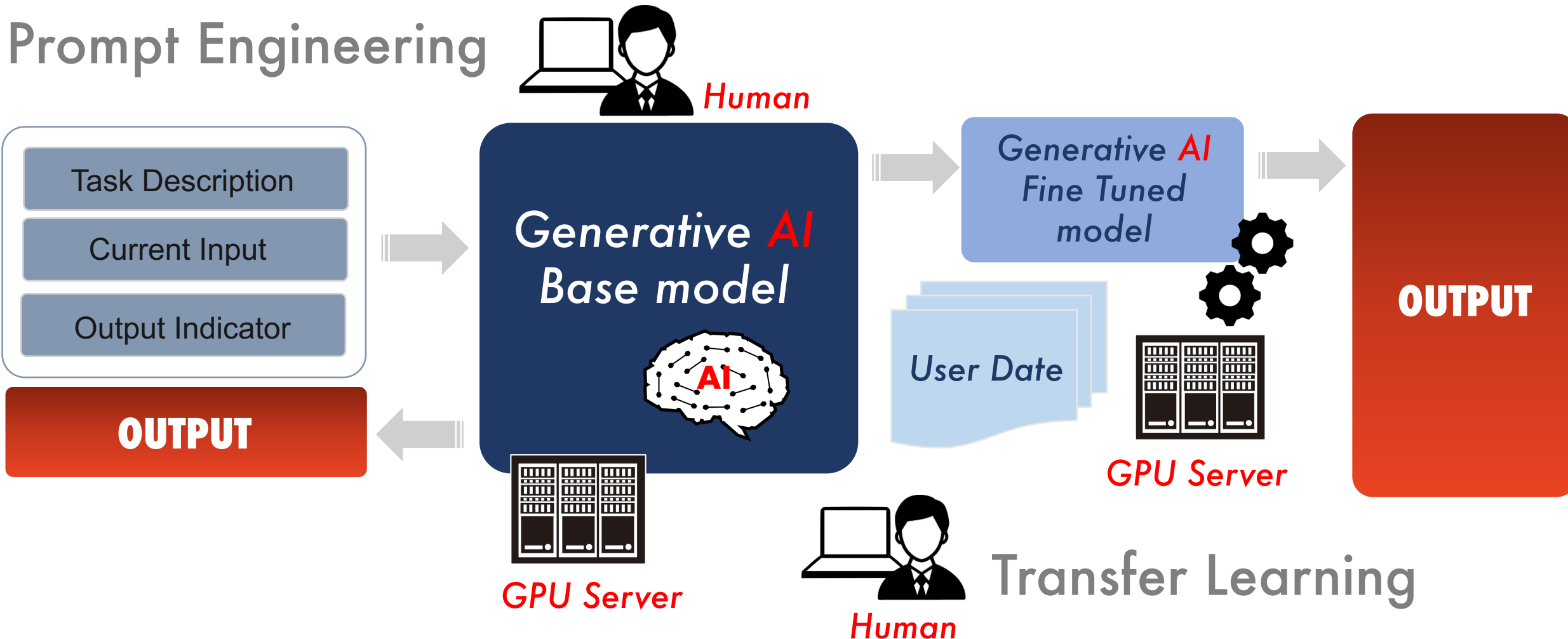
IT人材の不足を憂う一方で、衝撃的な進化を遂げる生成AIを私たちの新しいパートナーとして活用しようという動きも活発になっています。文章生成や画像生成だけでなく、音楽生成、動画生成までAIのサービスは登場しており、生成AI市場は順調に拡大することが見込まれております。



※Bloombergインテリジェンスのレポート（2023年6月2日）をもとに作成。

生成AIを私たちの新しいパートナーとして活用しようという動きが活発になっています。生成AIから、より用途に適ったアウトプットを得るためにプロンプトエンジニアリングが注目されています。また、AIを個別の業務にフィットさせるファインチューニングも重要になっています。この両者はAIとエンジニアの協働を目指す流れです。

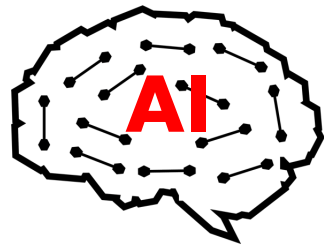
Prompt Engineering



当社はAIの社会実装を目指しております。株式会社ゼロフィールドの連結子会社化により広範なGPUサーバ活用に自由度がまし、よりAIテクノロジーの社会実装を推進できる体制となっております。既存のGPUの開発・販売にとどまらず、汎用性の高いGPUの提供によるAI実装を実現していきます。生成AI時代において、AI開発力とコンピューティングパワーを併せもった唯一無二のAIベンチャーとして事業を推進します。

Technical Capabilities

技術力 × 社会実装力
Implementation Capacity



AI Development Capability

AI開発・実装 × GPUサーバ

Machine-Computing Power



当社グループの事業分野及び各事業分野における注力内容は以下の通りです。それぞれSI、AIZE、GPUが事業の柱となっております。

事業分野

24年8月期注力内容

システム開発

SI

- ・顧客満足度向上、層の厚い若手エンジニアの底上げ
- ・チーム体制化を通じて、商流改善、プライムでのSES、受託開発案件獲得を推進
- ・当社独自AIエンジニア研修を通じて成長した経験豊富なエンジニアなどがAI開発事業へ柔軟なキャリアチェンジ
- ・生成AIを活用した新たなエンジニアリングの形の模索

AI

AIZE

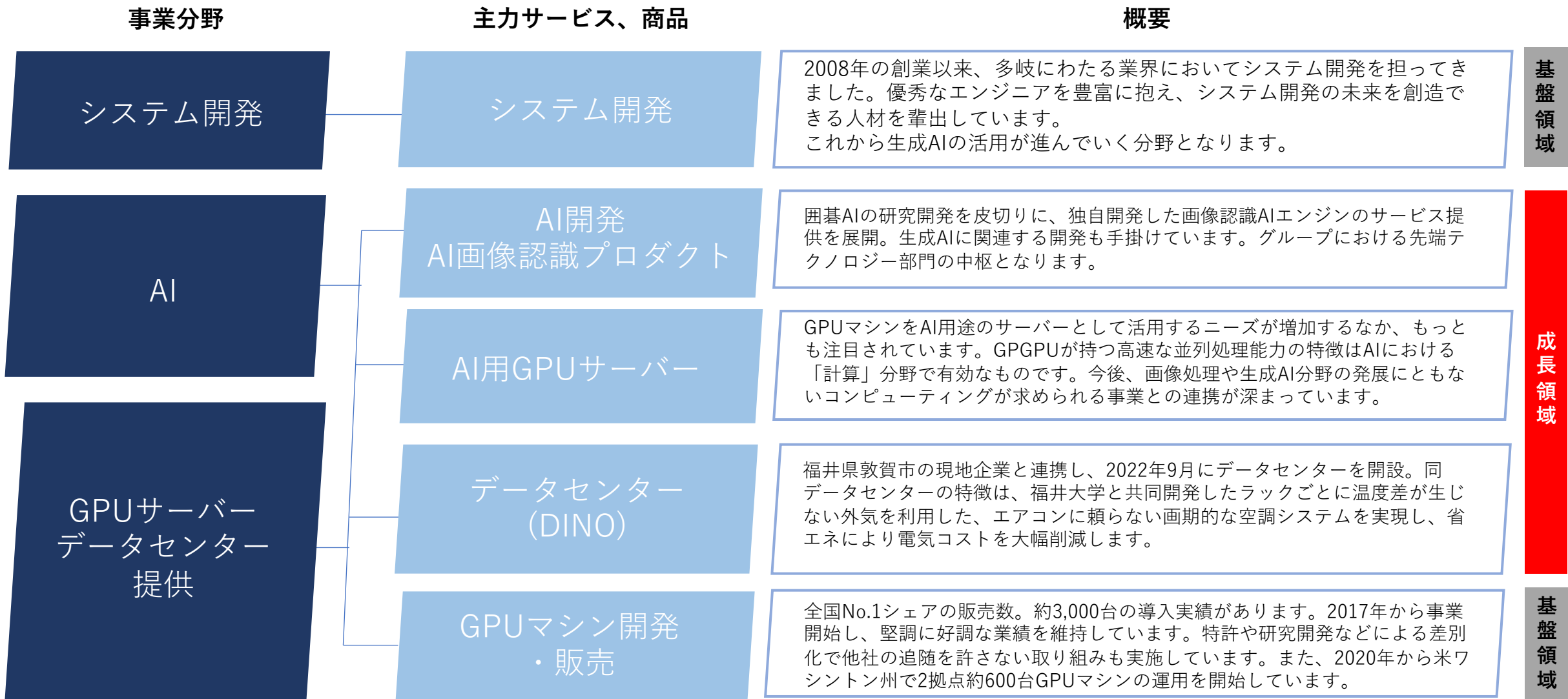
- ・改正道路交通法の施行に伴い需要の高まるアルコールチェッカー販売をドアロックツールとしたAI顔認証クラウドサービスの顧客拡大
- ・生成AIの活用を含むAIに関するニーズの引き合いを主として、一気通貫のオーダーメイドAI開発、ラボ型サービスの提供及び関連するDXプロジェクトのコンサルティング、開発
- ・業務提携などを通じた他上場企業等と当社との共同プロダクト開発、新規顧客領域の開発及び新サービス販売

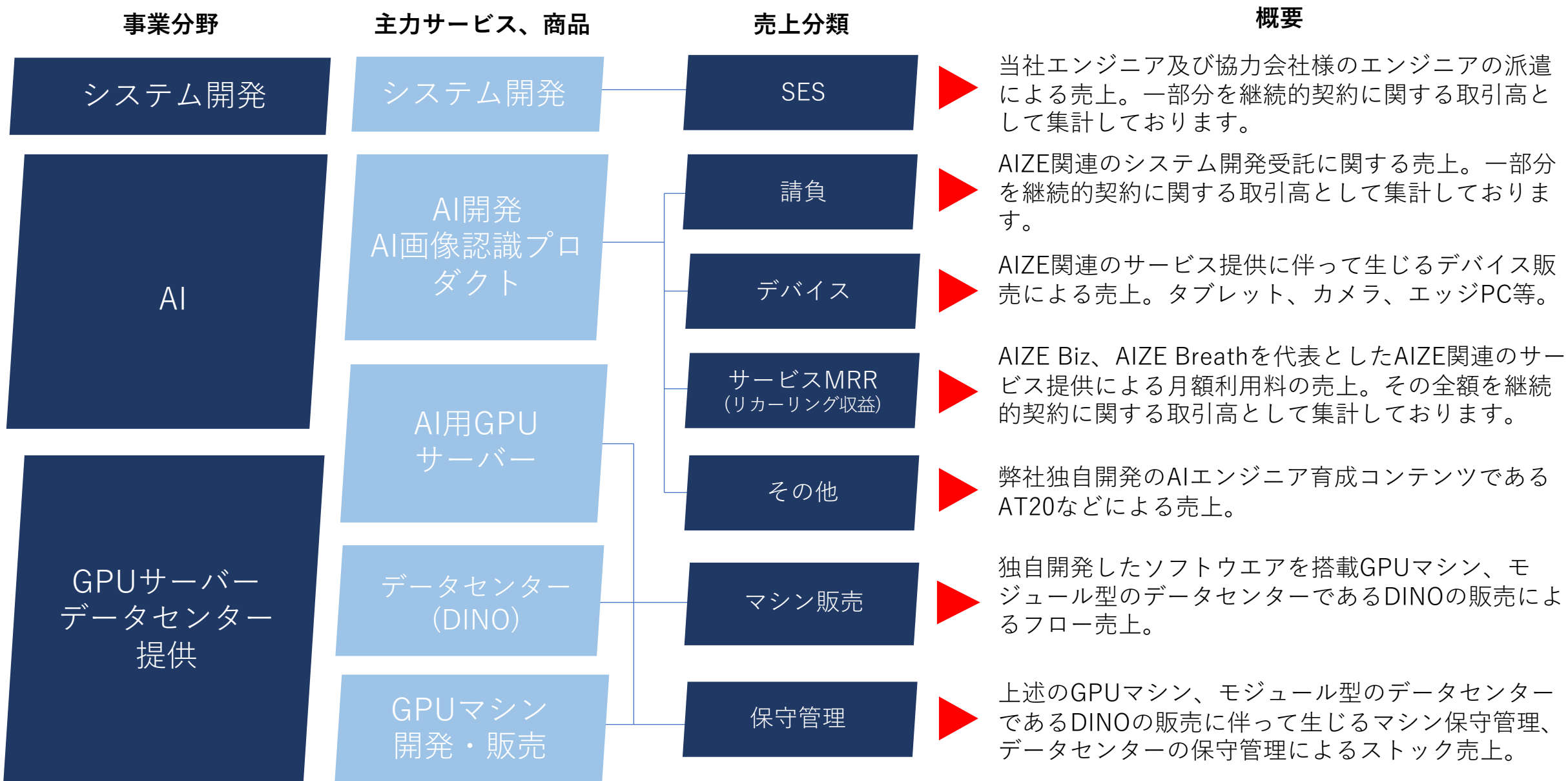
GPUサーバー
データセンター提供

GPU

- ・高度な画像処理や生成AIを含むAIに求められる計算力不足に対応するAI開発用GPUサーバーの開発、販売。それに関連するサービスの開発
- ・モジュール型データセンターであるDINOの大規模案件への注力
- ・デジタル通貨、暗号資産、ブロックチェーンの動向、電力料金、投資環境及び税制の動向に応じたマイニング用途の顧客ニーズに対するきめ細やかな商品設計と、安心安全のサポート

当社グループの主要な提供サービス、商品は以下の通りです。





販売シナジー

AIZE、AI請負顧客へGPUサーバ提供、GPUサーバ購入客へのAI提供

当社AIZE部門のAI活用事業会社へのゼロフィールドのGPUマシンの導入に関するアップセル提案や当社AIZE部門営業見込み先、既存得意先へのゼロフィールドのデータセンターの導入に関するアップセル提案。マーケティング機能の共通化を目的に、ウェブ広告共通化、展示会共同出展を実施、ゼロフィールドの事業に関する認知向上と拡販を見込む

生産・技術シナジー

高性能GPUサーバとAIエンジンの融合

トリプルアイズの自社開発AIエンジンと、一気通貫で実装可能なAIシステムに関するソフトウェアエンジニアの知見と、ゼロフィールドのGPUマシンやデータセンターに関するソフトとハードのエンジニアとの間で知見が融合しシナジー創出を見込む

投資シナジー

AI研究開発領域の深化、AIを活用したシステム開発

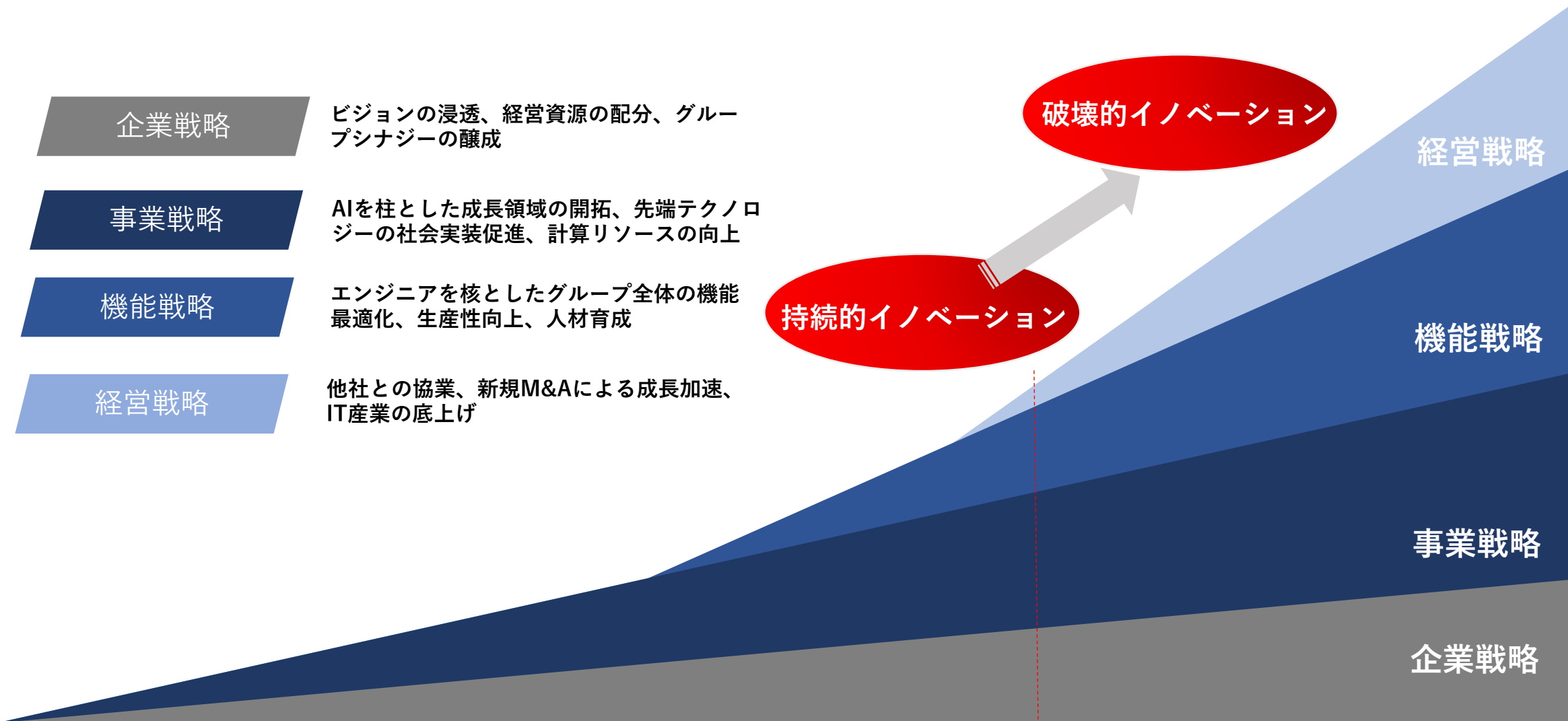
当社では現在AIに関する研究開発をAWSサーバー内で行っているが、当該研究開発における演算処理の高速化とコストダウンが可能となると見込む

管理シナジー

管理業務リソースの共通化

約280名の企業グループ規模のエンジニア集団となるため、社内情シス、管理部門、採用部門での業務共通化、社内ITインフラ共通化を図ることで、コスト改善や効率的な運用を見込む

技術的な進歩のみならず、人と社会への想像力を活かしてイノベーションを追求していきます。ゼロフィールドもグループインし総勢280名のエンジニア集団となりました。「AI×コンピューティングパワー」に挑戦している会社が稀有な中で、我々が破壊的なイノベーションを主導することで、次の市場のメインプレイヤーになります。産業として市場を拡大させテクノロジーによる新しい文化を醸成していきます。



CONTENTS

2024年8月期業績予想

成長市場におけるM&Aと成長戦略

2023年8月期通期業績

当社グループの強み

Appendix:業績、会社概要、事業関連

前年同期比で減収減益となっております。業績予想に対しては、おおよそ想定通りに推移いたしましたが、親会社株主に帰属する当期純損失において乖離が発生しております。こちらは、後述の投資有価証券評価損によるものです。

(単位：百万円)	2022年8月期 通期	2023年8月期 通期	前年同期比	業績予想 (2023年7月公表)	業績予想 進捗率
売上高	2,424	2,346	96.8%	2,322	101.0%
EBITDA	166	△249	—	—	—
営業利益・損失(△)	133	△269	—	△274	—
経常利益・損失(△)	115	△290	—	△294	—
親会社株主に帰属する 当期純利益・純損失(△)	112	△825	—	△668	—

昨年の検温器等のスポット売上の減少により前年同期比で減収減益となっております。業績予想に対しては、おおよそ想定通りに推移いたしました。AIZE部門の粗利率については、業績予想進捗率が94.8%と下回っており、検温器等の在庫の評価減を行っていることが要因となります。

(単位：百万円)		2022年8月期 通期	2023年8月期 通期	前年同期比	業績予想	業績予想 進捗率
SI部門	売上高	1,769	1,720	97.2%	1,717	100.2%
	売上総利益	388	380	97.9%	382	99.5%
AIソリューション事業 AIZE部門	売上高	612	581	94.9%	556	104.5%
	売上総利益	281	173	61.6%	182	94.8%
セグメント利益・損失(△)		121	△226	—	—	—
研修事業 <small>*重要性の観点より 2024年8月期より セグメント開示の 別掲はされない予定</small>	売上高	32	35	110.7%	—	—
	セグメント利益・損失(△)	11	14	118.8%	—	—
その他・セグメント利益 調整額	売上高	9	8	87.6%	—	—
	セグメント利益・損失(△)	△0	△57	—	—	—

当社の投資有価証券保有目的

主に既存事業とのシナジー醸成や事業領域の拡大を目的としております。

投資有価証券評価損計上の理由

一部の投資有価証券について、帳簿価額に比べて実質価額が著しく下落したと判断したため、減損処理を行うこととしました。

投資有価証券評価損計上金額

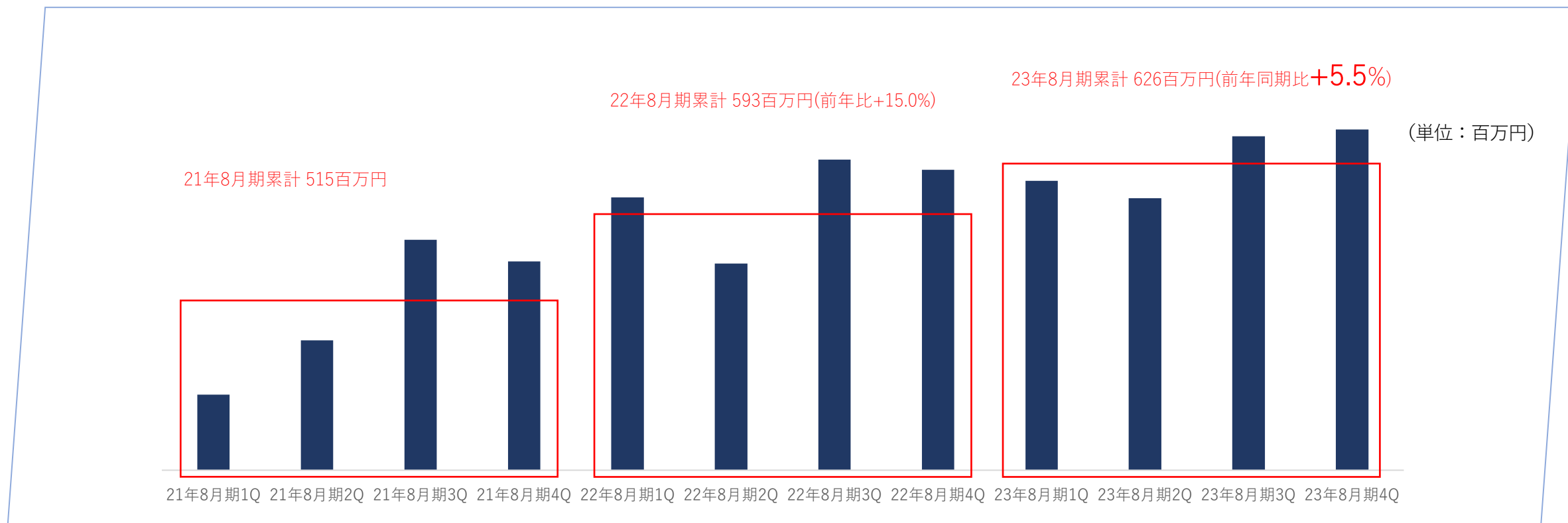
2023年8月期決算において投資有価証券評価損159百万円を特別損失として計上いたしました。

当該投資有価証券発行体との今後の関係性

当該投資有価証券発行体とは、AI開発分野における開発契約を締結しております。出資経緯である既存事業とのシナジー醸成は想定通りに進捗しており、また取引関係は良好に継続する見込みであります。

前年比減収ではあるものの、AIソリューションセグメント全体において、安定的なビジネスの推移を示す継続的な契約に関する取引高(取引が1年超継続している得意先に対する四半期毎の売上高)については拡大傾向を維持しております。

- ・ SI部門においては、安定的な取引のさらなる拡大、またビジネスパートナーとの連携による積み増しを含めた売上高の増大に取り組んで参ります
- ・ AIZE部門においては、中長期的なMRRの拡大に繋げるため、引き続き拠点ID数の増加に繋がる活動に注力いたします
- ・ なお、来期は、ゼロフィールドのストック収入含めて継続的な売上が増加する予定です。



CONTENTS

2024年8月期業績予想

成長市場におけるM&Aと成長戦略

2023年8月期通期業績

当社グループの強み

Appendix:業績、会社概要、事業関連

日本をのぞく世界の先端IT企業のほとんどが囲碁AIの研究開発に挑んでいます。囲碁AI 開発プロジェクトへの参画は、私たちのディープラーニングの大きな成果であり、AIエンジンの優秀性の証明となります。囲碁AIを通じたAIの研究は2014年から約10年に亘ります。

囲碁の局面変化 10^{360}

将棋の局面変化 10^{220}

全宇宙の粒子数 10^{80}

地球の海岸の砂粒数 10^{23}

日本総人口 10^8

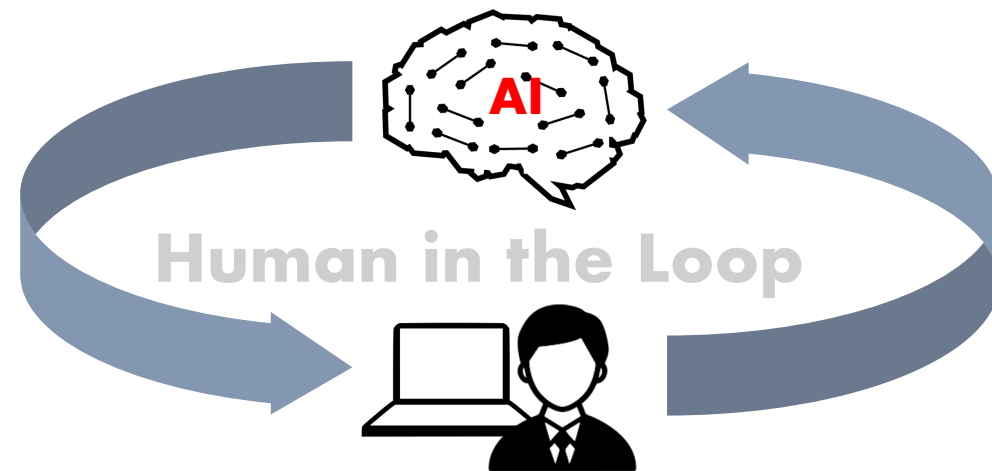
囲碁の盤面は19×19の361マス。指し手の選択数は10の360乗と天文学的に複雑。技術力の差が勝敗に現れます。

囲碁AI世界大会成績推移

開催時期	順位
2018年6月	8位
2018年12月	7位
2019年4月	4位
2019年12月	2位 ^{*1}
2022年3月	6位 ^{*2}

*1：共同開発プロジェクト「GLOBIS-AQZ」での成績

*2：2020～2021年は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、大会参加を見送っておりました。

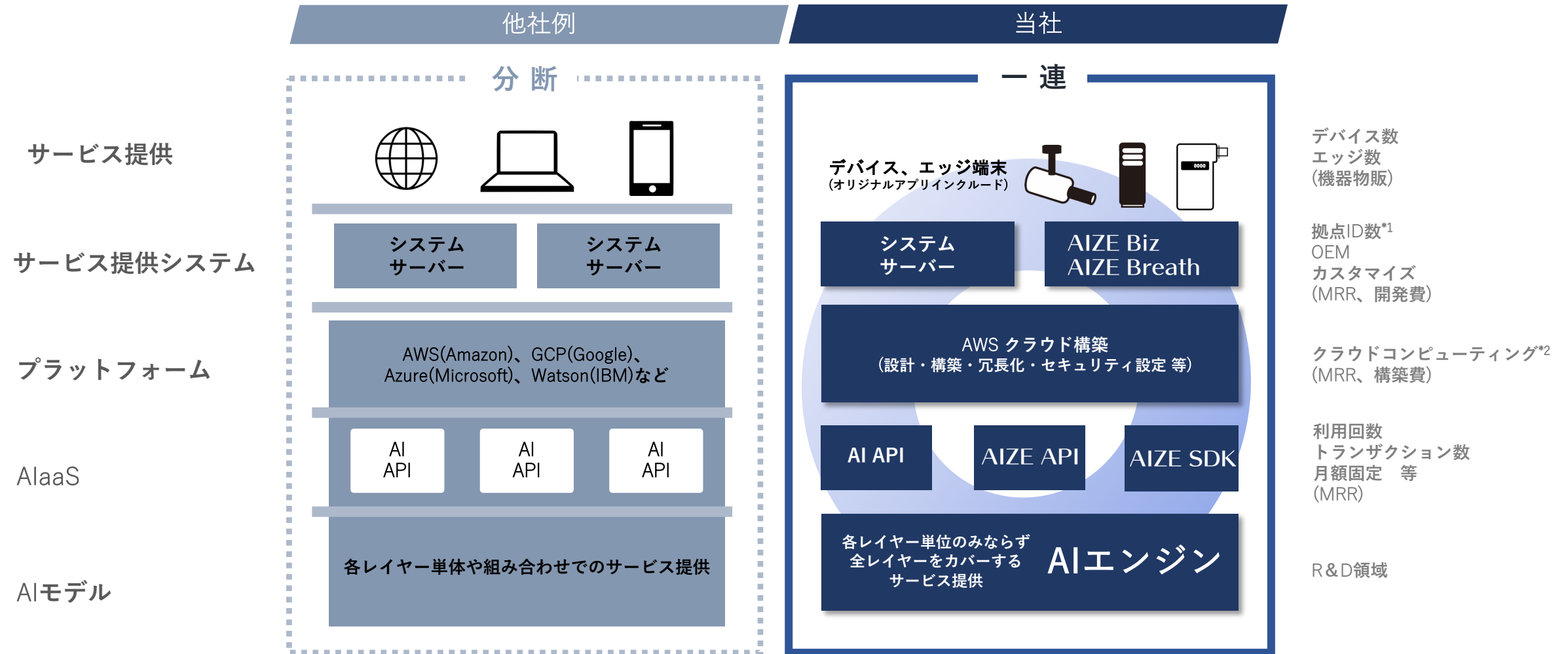


AIと人との共進 CAIの先行例

現在、将棋や囲碁のプロ棋士の多くがAIを使って戦術研究を行うようになってきました。それは一方的にAIに頼るのではなく、AIが持ち得ない感性や発想力をプロ棋士が発揮することによって、より高度なレベルの将棋や囲碁が生もうとしているのです。

そこは人間とAIが協力して切り拓く地平の最先端です。第3次AIブームの先をいく、人とAIの共存であるCAI (Co-evolutional AI：共進化AI) の時代がすでに始まっています。

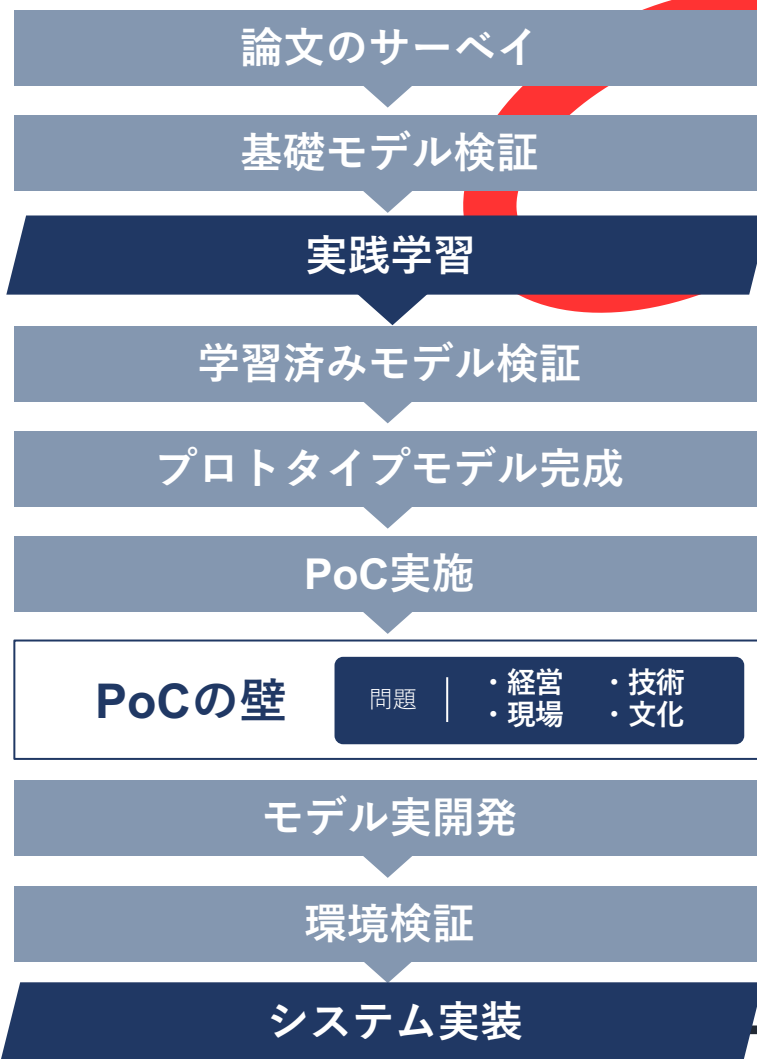
トリプルアイズは囲碁AIの研究を通じてAIと人間の共存の方法を探ってきました。誰もまだ見ぬ世界にすこしだけ早く足を踏み入れています。



*1：拠点ID数とは契約企業数やユーザー数、OEM契約等を総合した課金単位です

*2：AIZEのサーバーはAWS上に構築しており、クラウドコンピューティングの設計、構築等自社で行っております。当社は設計構築を事業化しております

AI実装のプロセス



技術力

「実践学習」のデータアプローチの強さ

手法はディープラーニングに固定せず、AIタスクによっては統計・機械学習アプローチも行います。データアプローチでは囲碁AIでも非常に重要で、トリプルアイズはここに知見があります。囲碁AIのデータは棋譜から特徴量を抽出する（画像解析）ため、そこに工夫が必要となり、強い囲碁AIに必要な技術なのです。

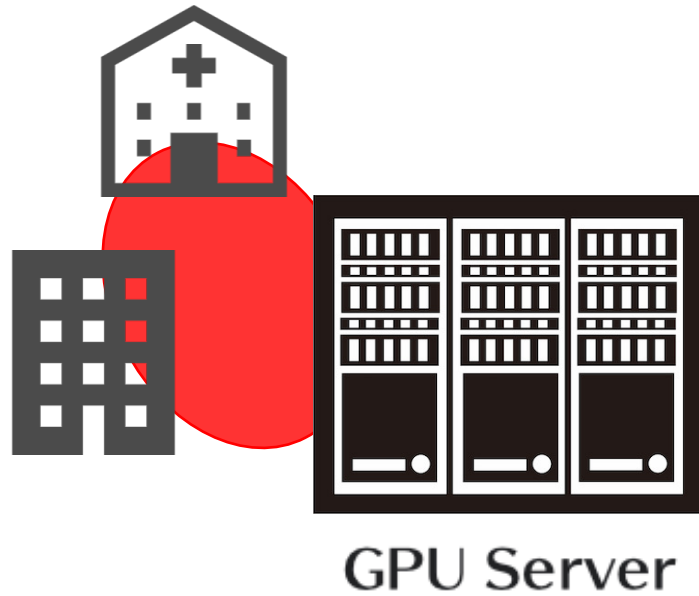
社会実装力

AIを「システム実装」できる珍しさ

トリプルアイズのサービス「AIZE」は、全て自社で開発しているながら、顧客ニーズから市場性を分析して、社会に本当に求められるテクノロジーの提供を行う、マーケットインの開発を行なっています。この実装力（カスタマイズ力）は、毎期の安定成長の実績に裏付けられております。

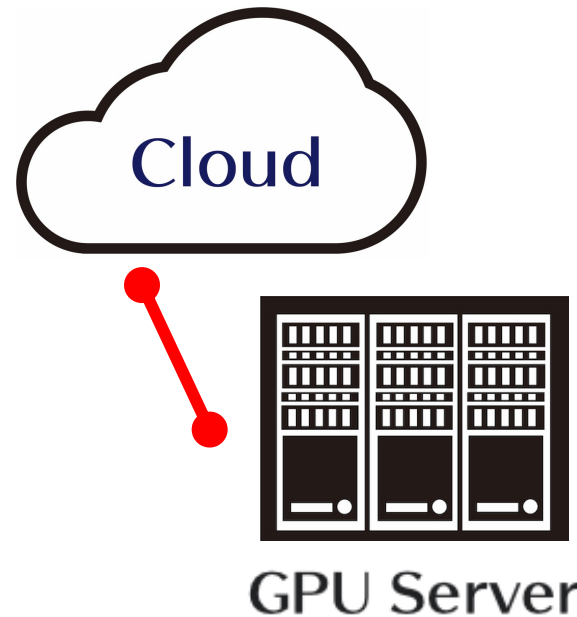
個人情報など機微なデータを扱う企業において、パブリッククラウドシステムの活用に慎重にならざるを得ない業務は多くあります。そうした業務はプライベートクラウド、オンプレミスでデータ運用されています。クラウドの利便性とオンプレミスの堅牢性を合わせもつハイブリッドクラウドシステムの提供できます。医療機関などセキュアなシステムを求められる業界に対応します。

オンプレミス 【基幹系】



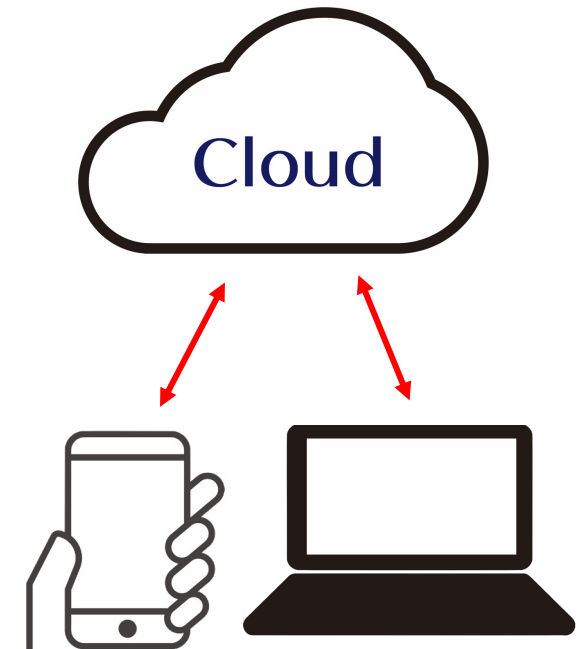
顔認証AIで使用するデータをオンプレミスで処理するにはGPUサーバが最適となる
AIZEはSDKで提供する

ハイブリッドクラウド



機密情報を自社内で管理しながら、機動性ある情報処理はクラウドが担う

クラウド 【情報系】



複数拠点での出退勤管理を一括管理するにはクラウドが最適である
AIZEほか、SaaSの活用

採用市場からのエンジニア採用が困難となるなか、トリプルアイズは囲碁AI研究開発、将棋採用、ロボット大会優勝など企業としての個性がきわだつことで優秀な人材の採用を実現しております。また、AT20というAI教育コンテンツや社内の定期的なエンジニア勉強会を通じて先端テクノロジー・エンジニア育成に注力することで、エンジニアの育成を行っております。さらに、ゼロフィールドのGPUマシンやデータセンターに関するソフトとハードのエンジニアとの間で知見が融合することによるシナジー創出を見込んでいます。

SI

エンジニア

エンジニアとしての実務経験
プロジェクトマネジメント
プロジェクトリーディング

独自開発AI教育コンテンツ

▶ **AT20**[%]
Let's challenge advanced technology

研修～検定実施

AI教育コンテンツによる
AIプロフェッショナル育成

AI

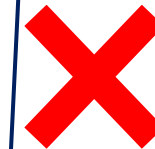
エンジニア

先端テクノロジー実務
自社プロダクト
プロジェクト参画

GPU

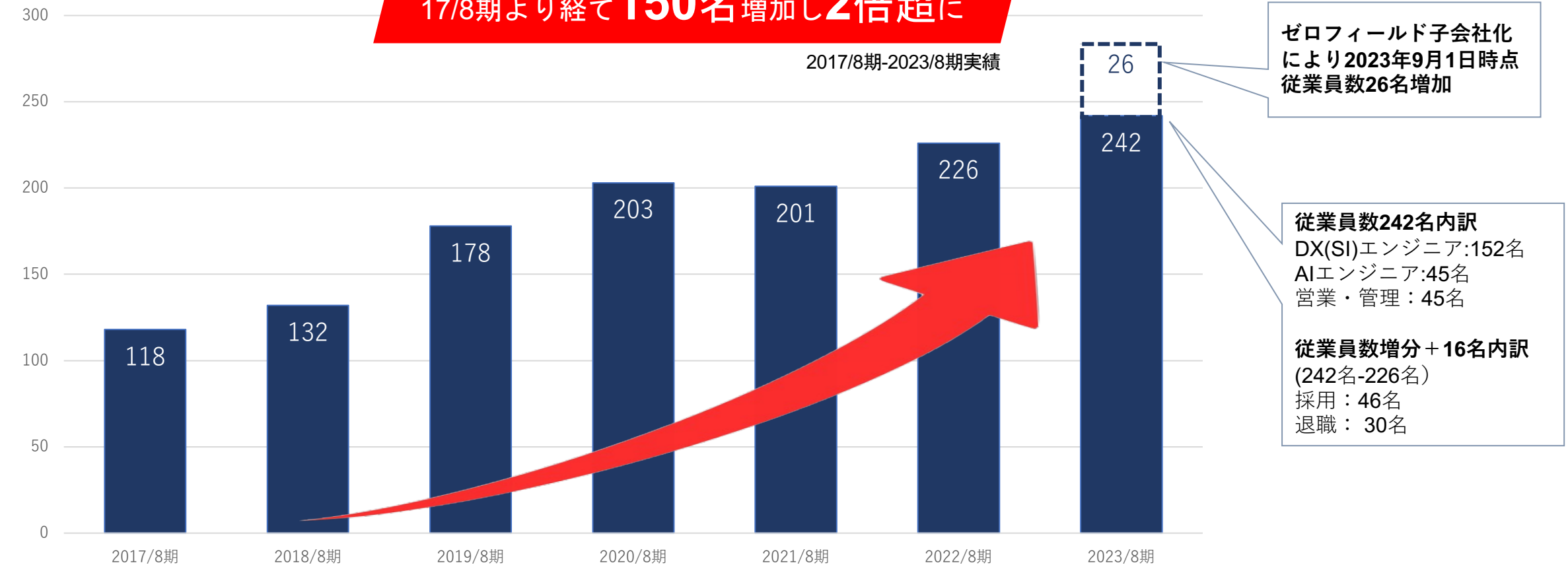
エンジニア

GPUマシン開発、構築
GPUマシンチューニング
データセンター運用



エンジニア成長第一主義のスローガンのもと、エンジニア人材不足時代の中、堅調にエンジニア人材が推移しております。またSI部門からAIZE部門への人材のシフト・拡大が続いております。

期末従業員数



2022/8期の期末従業員数は、株式会社トリプルアイズ単体、非正規雇用2名含む

CONTENTS

2024年8月期業績予想

成長市場におけるM&Aと成長戦略

2023年8月期通期業績

当社グループの強み

Appendix：業績、会社概要、事業関連

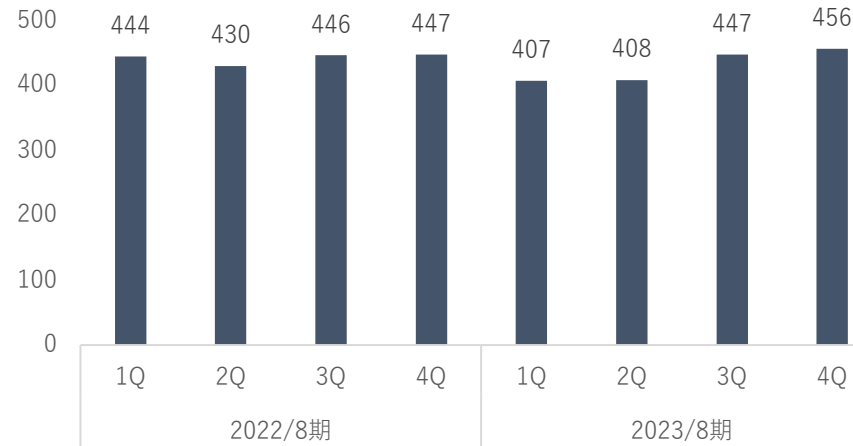
2022/8月期

2023年8月期

	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
SI売上(千円)	444,851	430,889	446,025	447,858	407,709	408,679	447,098	456,942
SI人月(人月)	704	697	717	731	664	665	707	785
SI単価(千円)	632	618	622	613	614	614	632	582
SI粗利(千円)	96,608	92,289	95,397	104,489	96,681	96,646	98,230	88,948
AIZE売上(千円)	150,865	175,412	156,053	130,210	122,809	147,693	162,913	147,830
AIZE粗利(千円)	62,687	93,681	74,675	50,595	42,642	54,339	52,842	23,536
AIZE請負売上(千円)	94,786	79,441	79,750	88,812	84,491	93,011	128,839	113,228
AIZEデバイス売上(千円)	29,444	54,876	44,337	13,867	12,985	26,485	7,167	7,959
AIZEサービス(MRR)売上(千円)	25,402	29,346	25,041	24,261	23,404	25,853	24,313	24,276
四半期末時点拠点ID数	1,001	1,302	1,408	1,639	1,874	2,533	2,704	3,250

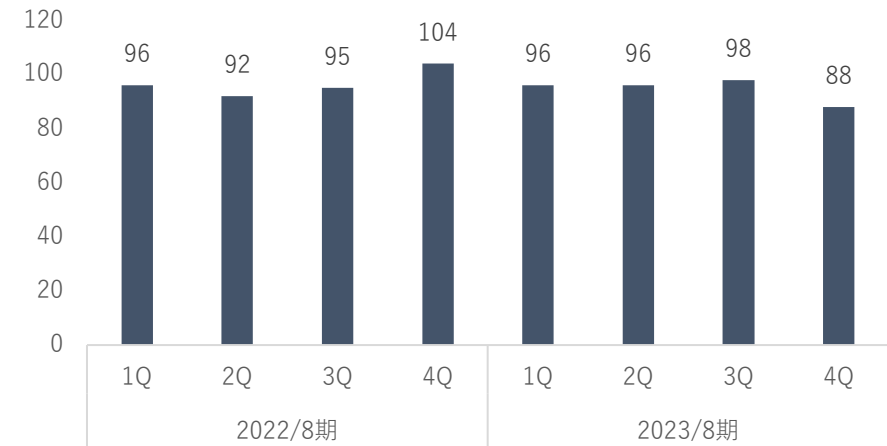
(単位：百万円)

SI部門 売上高推移



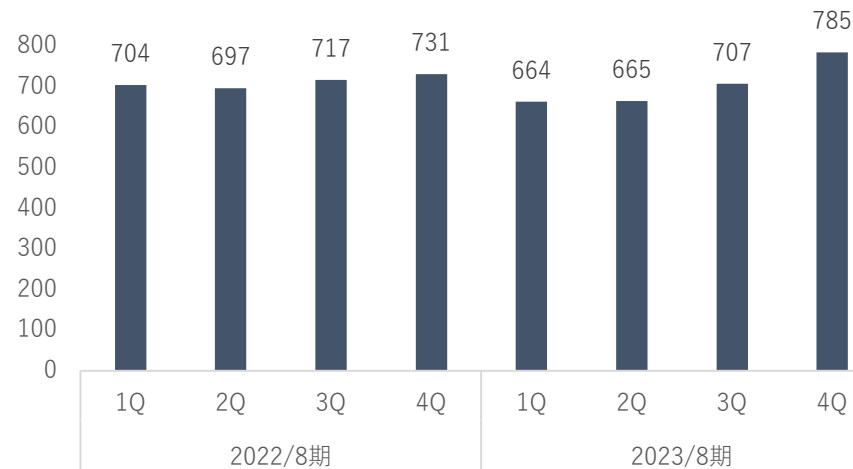
(単位：百万円)

SI部門 売上総利益推移



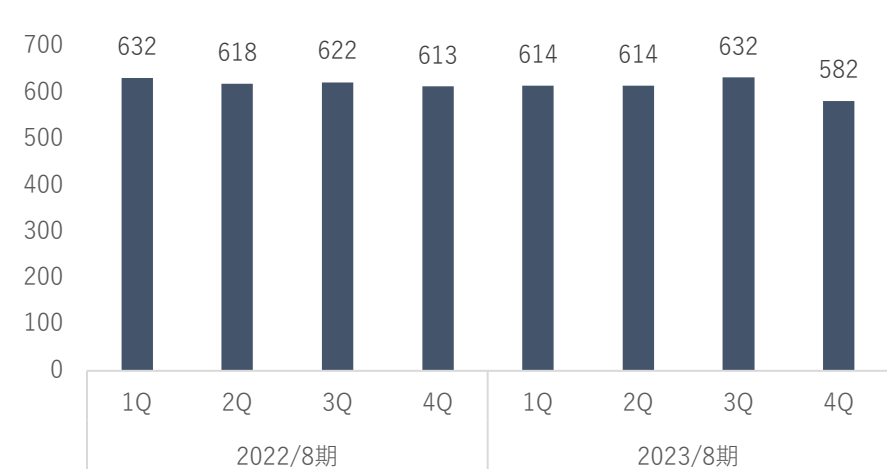
(単位：人月)

SI部門 エンジニア人月推移

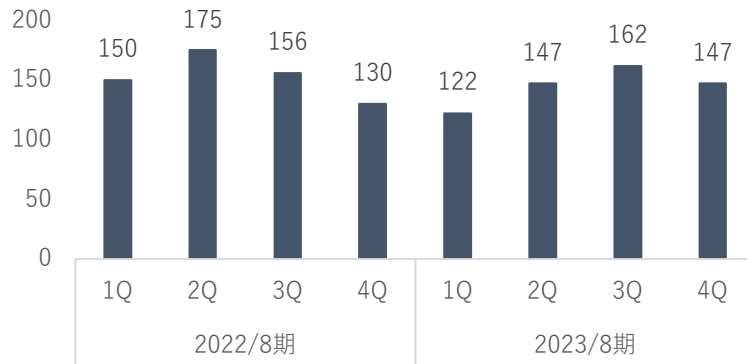


(単位：千円)

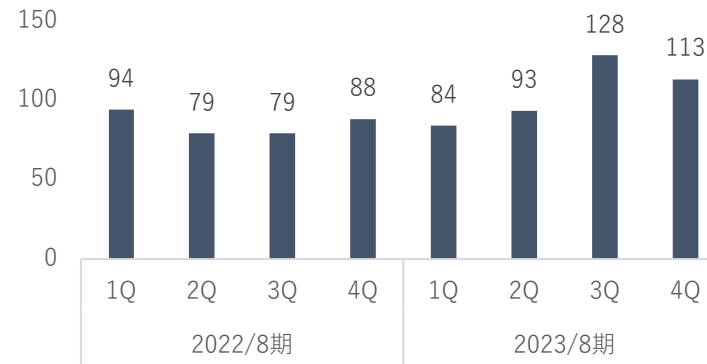
SI部門 エンジニア単価推移



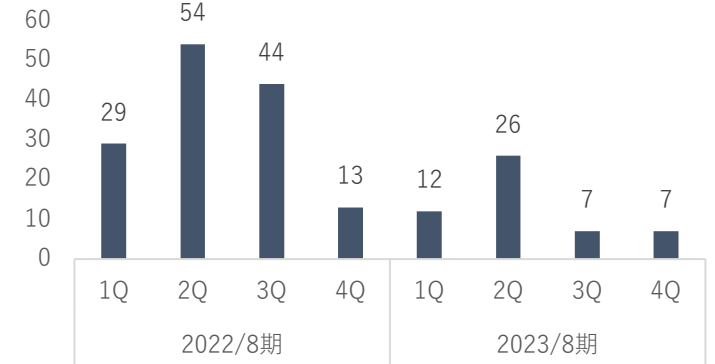
(単位：百万円) AIZE部門 売上高推移



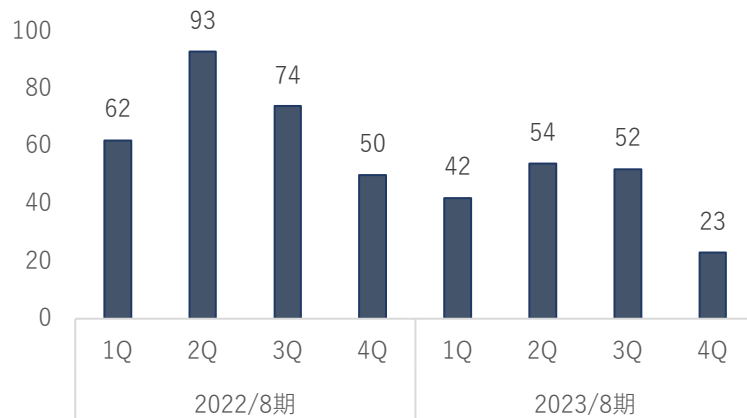
(単位：百万円) AIZE請負 売上高推移



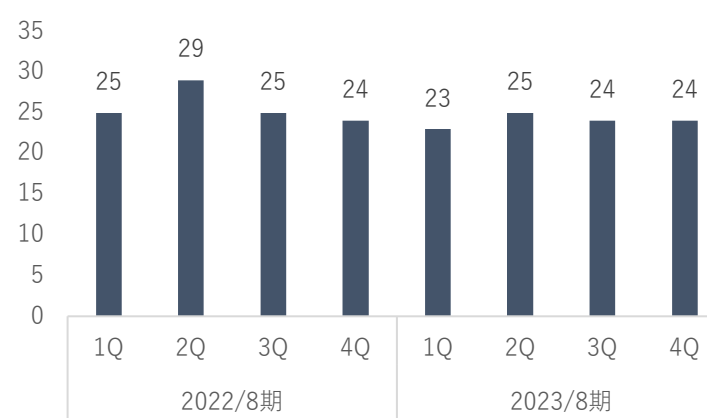
(単位：百万円) AIZEデバイス 売上高推移



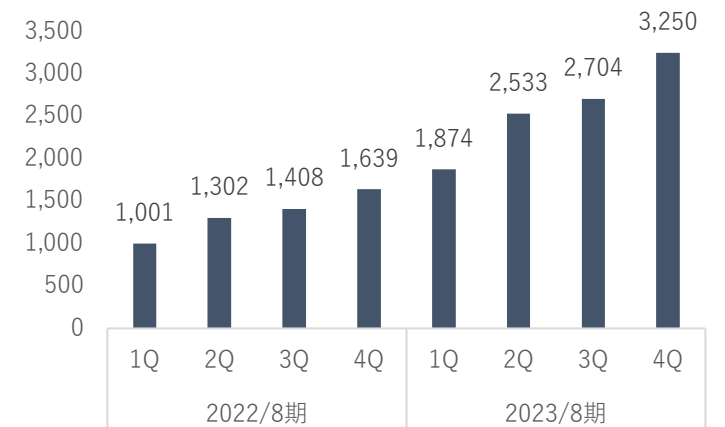
(単位：百万円) AIZE部門 売上総利益推移



(単位：百万円) AIZEサービスMRR 売上高推移



(単位：ID数) AIZE拠点ID数推移



2023年8月期において、ゼロフィールド子会社株式の取得のために1,200百万円の借入を実施しております。
 なお、2023年9月において、株式会社ゼロフィールドの完全子会社化(現金及び預金の1,199百万円の減少。連結による期首残高については集計中)、第三者割当による新株の発行(現金及び預金、純資産がそれぞれ299百万円増加)をそれぞれ実施しております。

(単位：百万円)	2022年8月期 期末	2023年8月期 期末	増減額
流動資産	1,484	2,152	+667
（うち現金及び預金）	1,079	1,754	+674
固定資産	303	149	△153
（うちソフトウェア）	40	9	△30
（うちソフトウェア仮勘定）	195	-	△195
（うち投資有価証券）	-	92	+92
資産合計	1,788	2,302	+514
流動負債	481	846	+365
（うち短期/1年内返済長期借入金）	139	480	+341
固定負債	149	1,123	+974
（うち長期借入金）	149	1,123	+974
負債合計	630	1,970	+1,339
純資産合計	1,157	332	△825
負債及び純資産合計	1,788	2,302	+514

- 深層学習（ディープラーニング）発明 … 2006
2008
- ISLVRCで深層学習手法を駆使するトロント大圧勝 … 2012
Google社、機械学習による猫の画像認識に成功 2014
- DeepMind社の囲碁AI「alphaGo」、プロ棋士に勝利 … 2016

人知を超える神の一手が打たれた！



出典
<https://www.asahi.com/articles/ASK4B5SJ4K4BUCLV00Y.html>

- OpenAI社のGPT-3.5発表 …… 2022

- 2023 …… 9月 株式会社ゼロフィールドを連結子会社化

- … 9月 東京都千代田区に株式会社トリプルアイズを設立
- … 8月 社内に囲碁AIプロジェクトチーム発足
- … 4月 国内初のブロックチェーン業界団体「ブロックチェーン推進協会」設立を支援
7月 AI(DeepLearning)基盤となる「Deepize」をリリース
- … 2017 8月 測量作業向けドローン制御アプリ「Droneize」をApp Storeにてリリース
9月 産業用モーターとITを融合したIoTサービスを開始
- … 2019 3月 AIによる画像認識プラットフォーム「AIZE」(アイズ)を発表
「AI 囲碁世界一奪取宣言」を発表
将棋採用(商標登録)スタート
4月 囲碁AI世界大会「博思杯2019」(開催場所:中国、福州市)にて4位を獲得
7月 囲碁AI大会「2019年CGFオープン」にて1位、2位独占
12月 囲碁AI世界大会「第11回UEC杯コンピュータ囲碁大会」にて
プロジェクト参画したGLOBIS-AQZが準優勝
- … 2020 3月 AIZEによる顔認証決済サービス「ヤマダ Pay」がスタート
7月 画像認識プラットフォーム・AIZE 開発プロジェクトVer.2へ移行
- … 2021 3月 創業者・福原智 急逝 山田雄一郎社長就任
- … 2022 5月 東京証券取引所グロース市場上場

総合商社

Marubeni

金融



JIA Japan Investment Adviser

小売・流通

銀座メガネコンタクト



食品卸売



三井食品株式会社
MITSUI FOODS CO.,LTD.

電気機器

AIZE販売パートナー



A.T.WORKS



建設ICT



株式会社 シーティーエス

情報通信



AIZE販売パートナー



CUBE SYSTEM

Sony Biz Networks Corporation



教育



建築



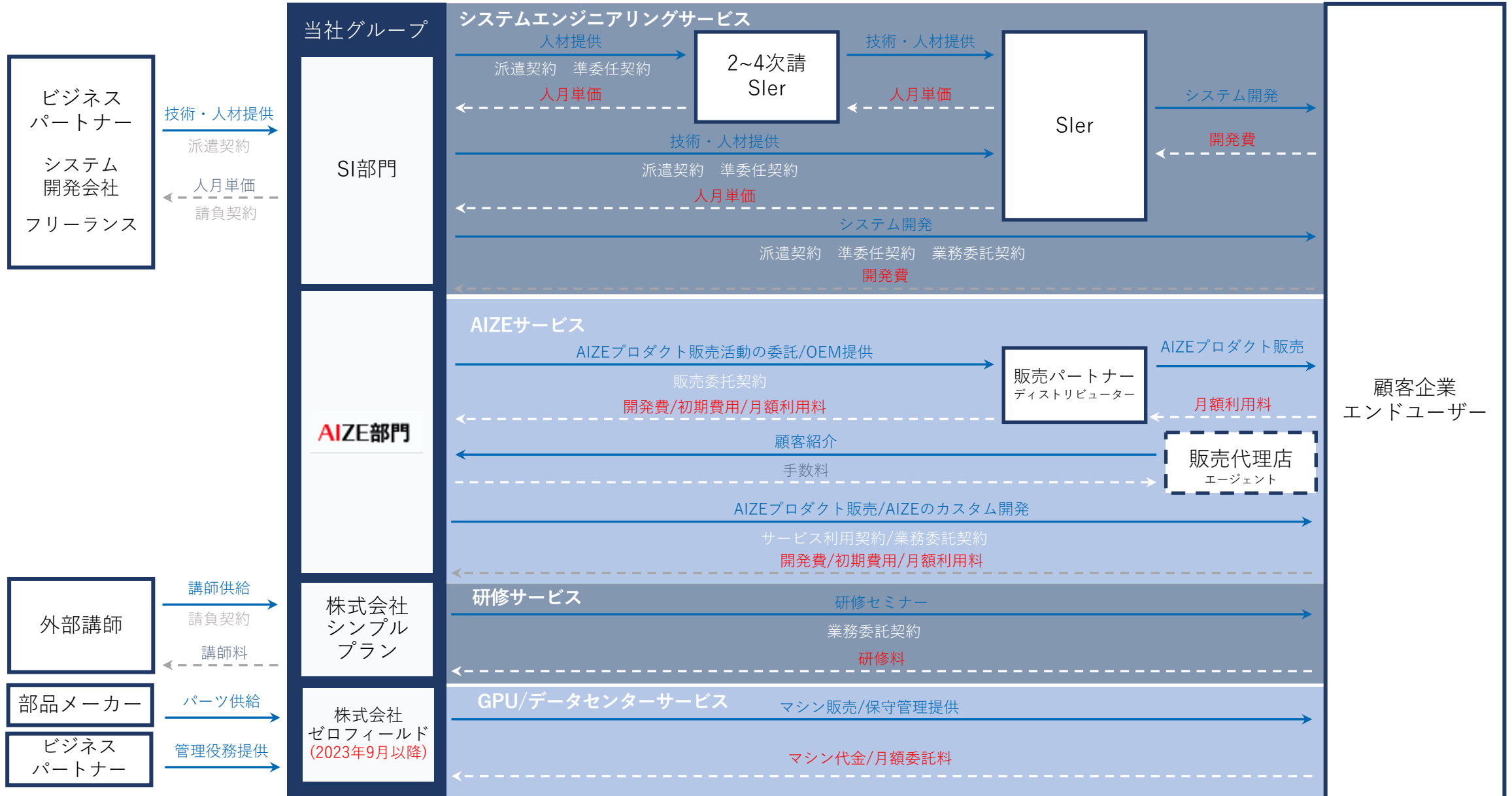
エレクトロニクス商社



セキュリティ

AIZE販売パートナー





項目	リスク	対策	発生可能性	影響度
事業環境の変化	AIソリューション事業の領域には国内外多くのIT企業が参入しており、市場は形成期にあります。生成AIによる大きな変化が生じる中で、事業環境がさらに大きく変化する可能性があります。	最新の技術動向や市場環境の変化を把握できる体制を構築、AIに関する論文のサーベイ、マーケティング調査の実施のみならず、業界のオピニオンのキャッチアップを仕組み化しております。	中	中
画像データの利活用に関する法令などの規制	単に個人情報保護法等の法令を遵守するのみならず、プライバシー保護の観点より考慮する必要があります。関連する法令等が改正され、あるいは社会的な要請が大きく変化した場合には、事業に影響を及ぼす可能性があります。	総務省・経済産業省より公表された「カメラ画像利活用ガイドブックver.3.0」（2022年3月）を参照し、法令及び社会規範上認められると判断した範囲内において、画像情報の利活用を行っておりますが、今後も関連法案の修正に備えセキュリティ技術の向上に努めております。	中	大
個人情報の保護	「個人情報の保護に関する法律」が定める個人情報取扱事業者として義務を課されており、プライバシー保護の観点から広範な配慮が求められています。情報の漏洩、不適切な利用等について配慮が不足した場合には、レピュテーションリスク等によって事業に影響を及ぼす可能性があります。	情報の漏洩防止はもちろん、不適切な利用等の防止のため、情報管理を経営上の重要事項と考え、社内においてもこれらの情報へのアクセスを制限するとともに、「情報セキュリティ管理規程」「個人情報取扱規程」等を制定し、全従業員に対する社内教育を実施するなど、法令及び関連するガイドラインの遵守体制を整えております。	中	大
暗号資産の市場価格の変動	株式会社ゼロフィールドは、暗号資産のマイニングマシンの販売を主な事業としております。暗号資産の市場価格はボラティリティがあるため、当該価格が低迷する場合、マイニング報酬が減少するため、同社の顧客層のマイニングに対するインセンティブが損なわれ、販売活動に影響を及ぼす可能性があります。	これまでの販売実績をベースに、市場動向に合わせた販売施策を実施しております。加えて、暗号資産の市場価格の変動に左右されない、高性能GPUサーバーの販売やデータセンター運営等の事業の拡大に注力しております。	中	大
税制改正	株式会社ゼロフィールドのマイニングマシンは、顧客の資産取得時における償却のニーズに対応して販売しております。税制の改正により、同社のマイニングマシンの償却に関するニーズが低減し、販売活動に影響を及ぼす可能性があります。	税制改正の影響を受けない、ASIC等の取り扱い製品を増やすことで新しいニーズを創出しております。加えて、税制変更に伴うニーズの低減に左右されない、高性能GPUの販売やデータセンターの運営等の事業の拡大に注力しております。	中	大

- 2023.07.14 第4次AIブームの先頭を走るためにどうする？—「Japan IT Week 名古屋」で先端AIテクノロジー導入の相談室を開設
- 2023.07.24 AI人材を必要なときに必要なだけ—トリプルアイズがAIラボのサービスサイト公開
- 2023.08.02 アルコール検知器義務化に向け販売体制を強化—トリプルアイズとミタチ産業が業務提携
- 2023.08.10 AI活用で製造業の生産性を劇的に向上—GAUSSとトリプルアイズが競争力強化セミナー開催
- 2023.08.28 個々人の成長と組織のさらなる飛躍を誓う—16期に向け、2023トリプルアイズ全社員集会を開催
- 2023.08.31 あと3カ月！ アルコールチェック義務化施行せまる—いま乗り換えるならAI顔認証のAIZE Breathがとてもお得
- 2023.09.01 GPUサーバーがAI開発を加速する—トリプルアイズがゼロフィールドを子会社化
- 2023.09.04 ラジオNIKKEI「この企業に注目！相場の福の神」に当社代表 山田がゲスト出演しました

2023年8月期において株式売買高の反応が相対的に大きかったリリースを任意に記載しております。

2022.08.31	顔認証AIのトリプルアイズがSMS認証大手のアクリートと業務提携	業務提携
2022.11.14	顔認証AIを用いた乗降データ取得の実証実験 トリプルアイズが丸紅、信州大学と共同で	AI
2022.12.01	トラック協会の助成対象機器にトリプルアイズのアルコール検知器が選定	新サービス 関連
2023.02.13	AIの眼で「食の信頼性」を社会に提供する—トリプルアイズとセキュアがワーキンググループを立ち上げ	AI
2023.03.07	「顔」でドアロック解錠が可能に—トリプルアイズとエーティーワークスが顔認証ロックシステムを提供開始	新サービス
2023.03.22	顔認証AIがTeamSpiritと連携開始——顔認証による打刻で、よりセキュアでフレキシブルな勤怠管理が実現	新サービス
2023.04.17	4月17日（月）夜10時より放送のWBS内にてトリプルアイズの顔認証技術が紹介されます	メディア
2023.04.26	太陽光発電施設での盗難対策にAI監視カメラを活用——JIAとセキュリティソリューションの実証実験開始	AI
2023.07.27	株式会社ゼロフィールドの 連結子会社化について	M&A

VISION

トリプルアイズの経営理念

テクノロジーに想像力を載せる



Realize Customize Maximize
TRIPLEIZE



Photo by Rika Takei

免責事項

- 本資料は、当社の計画、見通し及び戦略に関して、適切な理解を促進することを目的としたものであり、当社の株式の購入や売却を勧誘するものではありません。投資に際しては、投資家様ご自身のご判断において行われますようお願いいたします。
- 本資料に記載された全ての数値、指標等が監査法人による監査又はレビューの対象ではない点にご留意ください。